第 80 号　2021 年 9 月　発行

まこと館だより

Est.1912　　発行：至誠学舎立川　編集：法人事務局

新常務理事就任挨拶

令和３年６月 19 日に開催された「至誠学舎立川第 351 回理事会」において常務理事の指名受け保育事業本部長を拝命いたしました長谷川育代でございます。伝統と実績のある法人で重責ではございますが稲永勝行理事長のリーダーシップのもと皆様と一緒に「まことの心」の理念に基づく福祉実践を行ってまいりたいと思います。宜しくお願いいたします。

自己紹介ですが、一応女性ですので年齢は不詳でお願いいたします。至誠に就職して勤続 30 年以上で、想像してください。至誠第二保育園に就職して万願寺保育園の立ち上げで異動し現在、万願寺保育園で園長も兼任しております。

保育の仕事が好きで、子どもたちの笑顔に日々励まされ、保育の環境について考え楽しくお仕事させていただいていたら 30 年が過ぎておりました。この間、様々な危機がありましたが、一緒に仕事をした仲間と『失敗は成功のもと』『困難＋困難＋楽しい＝成長』この成長が私を支えてくれたような気がします。職員の皆様にも長く働き続けられ、やりがいと魅力ある職場となり、至誠学舎が居場所となるよう皆さんと考え、共に進んでまいりたいと思います。

保育界は今、大きな変換期を迎えています。待機児対策は都市部の問題となり幼児は待機児がいないため、定員に満たない保育園も出てまいりました。又、子どもたちを取り巻く環境子育て世代を取り巻く環境、社会等、様々な考え方、ニーズに変化を感じており、保育所の果たす役割はより一層重視されています。
子ども中心に保護者、地域、職員が助け合い（自助、共助)、「教育・保育」を通して健やかな育ちと、さらなる地域福祉のため貢献してまいります。

最後に新型コロナウイルス新規感染者の急拡大が連日報道され、身近な人にも感染が広がり目に見えない恐怖を感じます。８月に入り系列園からも感染の報告が次々入っており保育園での感染拡大も身近に感じております。ワクチン接種が進むともう少し落ち着いてくるかもしれませんが「正しく恐れ」ながらもう少し「我慢」をしてこの危機を乗り越えていきましょう。

常務理事　長谷川　育代

本部事務局だより　倒　産

会社は「赤字」になると倒産するか？答えは「否」である。赤字とは、年間の支出が売上を上回る事であり、設備投資等で一時的な支出が増えた時によくあることである。似た言葉で「債務超過」と言うのがある。簡単に言うと負債(借金)が資産を上回ることである。会社は「債務超過」に陥ると倒産するか？答えは「否」である。これも上記と同様に一時的に債務超過することはあるが、直ちに倒産するものではない。では会社はどういう時に倒産するのか？それは、「資金ショート」した時である。手元資金が無く、期日に支払不能となれば、銀行は取引を停止し、会社は直ちに倒産する。従って会社は資金がショートさせない「資金繰り」を常に周到に計算し最も注視しているのである。社会福祉法人はこれまでそのほとんどが措置施設だった事からか、資金ショートにあまり気を配る必要が無かったかもしれない。しかし、現在のように収支差額が数％と言う薄利の中では、ちょっとした躓きが負の連鎖を引き起こし、お金が回らなくなりかねず、経営のハンドル捌きの的確さが求められるのである。狭くて暗い夜道を運転する時にはより慎重な運転が必要だ。

法人事務局長　野島　忠幸

事業本部情報

児　童　事　業　本　部

９月１日は防災の日。防災の日は大正 12 年の関東大震災の起こった日の９月１日に定めたとあります。至誠学舎の歴史でも関東大震災により、当時製菓事業を営んでいた池袋社屋が相当な被災をしたと想像します。「稲永久一郎先生（復刻版）」によりますと、当時１３０人ほどいた少年たちと産業組合を設立して製菓事業を営んでいる頃に、関東大震災により家も財産も焼けて、少年たちを全員親元に送り返し、事業は中断したと記されてます。その後事業は再建されますが、どれだけ再建に向けて行動されたのか記録が見つけられません。きっと記録をつける間もないほど、再建という夢に向かって、手と体を動かし、頭をフル回転させて、再建に向けて、少年たちのために、関わる人が皆で走り回っていたのでしょう。大変だったと思いますが、きっと全員が自分事として再建できると信じていたと思います。

現在の目の前の問題に置き換えると、夢をかなえるためには、関わる人が再建を信じ参加しなければと思います。頭を使って手足を働かせ、日々のやるべきことをやれば、前進すると信じています。　　（児童事業本部事務局長　髙橋誠一郎）

保　育　事　業　本　部

７月末に始まりました世界的なスポーツの祭典の大会基本コンセプトは、「すべての人が自己ベストを目指し」、「一人ひとりが互いに認め合い」、「そして、未来につなげよう」です。世界中の子ども達は置かれた環境の中で自らを成長、発達させています。つまり自己ベストを更新し続けている状態と言えるかもしれません。保育園の小集団でもお子さまなりにお友だちとの違いに気がつき、肯定し、受け入れ、互いに認め合うような関わりができていきます。人種、肌の色、性別、言語、障がいの有無など、あらゆる面での違いを互いに認め合うことにつながる経験をしているのではないでしょうか。子ども達がこの行事から何かを感じることで、どのような未来を継承、創造してくれるのかとても楽しみです。大会には多くのボランティアが関わっており、大会と直接関係はありませんが当園の職員が園内ボランティアを募集しました。園児にちょっとしたお手伝いをしてもらったところ参加してくれたお子さまだけでなく保護者からも喜ばれたようです。大会は選手だけが参加するんじゃない。「私は輝く！」その人らしさが発揮できる社会になってほしいと願います。緊急事態宣言が続いておりますが、暑さ対策も忘れずに。車や水の事故にも気をつけて、楽しい夏になりますように。注射のあとは痛くてももんじゃいけないらしいですよ。

（至誠ひの宿保育園　園長　髙橋　滋孝）

高齢事業本部至誠ホーム

立川錦町地区の納涼大会は、デルタ株による感染拡大が心配される状況で難しい判断となりましたが、昨年に続き今夏も実施することはできませんでした。同じ時期には、オリンピックの開催の可否の議論も重なっており、「オリンピックが開催されるのであれば」と実施への期待も高まりましたが残念ながら中止となりました。その後の感染状況を見ると、正しい判断になりました。できていれば、錦町地区の納涼大会は地元の町会の錦六会と共催して櫓を拝借し、盆踊りやお囃子など賑やかで、模擬店の種類も多く、しかも安く、そんじょそこらの盆踊り大会には負けない規模で、利用者の皆さんはもちろん、地域の方々や職員にとっても楽しみにしている行事です。

至誠特養では、その代わりにフロアを超えて利用者が交差しない形で８月６日に「夏祭り」を行いました。納涼大会ができない悔しさはありましたが、施設単位での大きな行事も久しぶりということもあり、利用者の方々と共に職員も浴衣やはっぴに身を包み一緒に楽しんだ行事になりました。　新型コロナよ、今に見てろよ！来年はもっと楽しんでやるからな！

（至誠特別養護老人ホーム園長　鈴木　篤）

(編集後記)あっという間に、夏の終焉です。2020 オリンピックもパラリンピックも戦っているどの選手の姿にも元気をいただきました。時代によって新しい競技がどんどん誕生するのも楽しい！（雲）